



## 第38回 虫採りで育つ

虫採りの季節です。花形はやっほりカフト、クワカタ。お父さんお母さんどつと子どもと一緒に虫採りを楽しんでください。ごうかホームセンターで虫を買わないでください。子どもにとって必要な、わくわくする自然体験・生命体験を、子どもにとって不必要な消費者体験で補おうとする過ちだからです。

『せかいいちおおきなうち』という絵本があります。作者は『スマイリー』で有名なしおりしおり。『ローネリアス』『フレデリック』など深い精神性をたたえた作品が多数あります。主人公の小さな殻のかたむりは「おとなになつたらせかいいちおおきなうちがほしい」と願います。そして自らの殻を大きくする術を習得し、さらにつつのや模様までつけてバーステークキーのようなおうちを身につけ、世界一美しいといわれるかたむりになりました。ところが、キヤベツを食へるくし移動しようと思つたらつけない。うかがあむの重みかいて。食へ物もなくやせほそり、後には何も残らなかつた、という話。

「スモールイズビューティフル」ということを改めて思わされます。大きな家を建て、その中にたくさんをモノを買って、「たくさん」を豊かだとか幸せだと思つて、今どきのツイートの考え方にとっては警鐘となるでしょう。家が重すぎて動けなくなるというのはリアルで辛辣（しんらつ）です。際限のない欲、しかも「自分の好きなもの」という冠をかぶせられて肯定された欲に振り回され、自分という牢獄で自縛自縛。

虫採りに行けば虫だつてたくさん欲しい。たくさんいねは嬉しい。採つた分はみな持つて帰りたい。そう思つて、そうするんですよ。ところが、そうしなかつた美哉の保護者やお話をお話を聞かれました。

たくさんカフトを採つて持つて帰らなくていいから、一冊をいながす冊



がけをしたのです。そんなたくさん連れて帰って、きちんと飼えるの？。そういわれて子どもはしばらく考えました。そして多くを逃がす決意をしたのです！ 受け入れがたい提案に決まっています。それを呑むにはよほどの葛藤があつたはず。駄々をこねて泣き出してもおかしくない。よく決断した立派な子です。そういう問いかけを出せるのも立派な親です。

もうちょっといいいに考えると、はじめから立派である子が立派な決断をしたのではなくて、立派な決断を重ねていきながらその子は立派な子になっていくのだと思います。そして、その子は今でも虫をよく観察して虫のことを考えて逃がすことができます。カフトの幼虫を上手に世話をして、夏になって成虫になったことを嬉しそうに報告してくれます。

また別のお母さんたちの声も聞きました。こんなに連れて帰つたらカフトは仲間がいなくなつて寂しいんじゃないか。来年またここに来た時カフトがいなくなつてゐるのではないか。後から来る人がカフト採りができなくなるのではないか、等々。びさいの親力の高さで頭が下がります。

一つ一つながしの中で、子どもたちは「自分さえよければ」といふ思いを破られるのであり、虫たちや他の誰かへの思いをもつようになるのであります。

欲望のままに振る舞つて取り戻すということが大人社会では行われていきます。取り戻さないような工夫をする大人たちもいます。ところが育つた子たちは取り戻す側の大人にはならないのではないのでしょうか。もしかしらば乱獲、乱開発に歯止めをかけてくれる人になってくれるかもしれません。

虫採り一つで多くのことが育ちます。大人の注意次第で育つものが異なつてきます。子どもにとって不必要なものだらけの社会の中で、子どもが豊かな経験を積むには、大人が、子どもにとって不必要なものを見定めなければなりません。



**カブト虫が  
欲しい！！**

**買う**

消費社会体験  
消費者体験

欲しいものは買えばよい  
金を出せなんでも買える  
という考え方のスリコミ  
虫は自然をすみかにしてるといふ感覚  
が育たない。

子どもはお金を持たない  
労働の対価  
なので子どもを消費社会の住人にする  
必要はない。

外来種を買う⇒「遺伝子汚染」  
在来種が外来種によって駆逐され  
て絶滅危惧種となり生物多様性が  
失われる



**虫採りに行く**

自然体験  
生命体験

わくわくハラハラ  
させるもの  
自分の思い通りに  
ならないもの

いないこともある  
採りたくても採れない。  
逃げられる。  
虫を、  
それが生きている世界と一つに、  
経験する

求めたものを誰かから与えられるのではなく、自  
ら欲したものを自らの力で獲得するよろこび。  
お客さんではなく主体である経験



虫同士のおすもうも楽しみの一つ

**飼う**

あるべき場所から引き離し不自然で  
窮屈な所へ閉じ込める。  
生き物を飼うことはけっこう罪深い。

でも  
飼うこと通して学ぶことアリ  
(ごめんなさいの気持ちをもっておきたい)

ちゃんとお世話する  
よく見る

適正な量にする

にがす

卵が白くまばゆい⇒  
⇒幼虫⇒さなぎ⇒ 一年かけて成虫になる

どんなにお世話にしたって、  
それでも生命の仕事が終わればすみやかに死ぬ。  
生きものは死ぬものという生命の経験をする。

死んでしまったら、かなしい。  
埋葬するもよし。  
死骸の解体過程を見るもよし。